

マタイ 3 章 13-17 節

「イエスのバプテスマ」

今日の箇所は、イエス・キリストが洗礼者ヨハネから洗礼を受けられたことが記されています。今日は「洗礼とは何か」、またイエス・キリストが洗礼を受けられた意味を考えていきたいと思います。

洗礼は、第一に、私たちの悔い改めのしるし、言い換えれば、新しく生きることの決意のしるしです。「悔い改め」というのはギリシア語で「メタノイア」と言いますが、それは方向転換を意味する言葉で、悔い改めというのは向きを変えて生きることです。私たちの中には、心の中で信じて、心の中で悔い改めて、イエス・キリストの弟子として生きようになればそれでよいではないか、と考える人もいることでしょう。しかしパウロは、ローマの信徒への手紙10章9節、10節でこう述べています。「口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです」。自分自身にとってははっきりと信仰告白をし、洗礼を受けることは、人生において消すことができない一つの出来事、事件となります。それが信仰の原点となります。それがクリスチャンの自覚となり、かえってその後の支えになるのです。洗礼とは、いつも立ちかえっていく信仰生活の原点です。同時に、クリスチャンであることを言い表すことによって、私たちはイエス・キリストの証人となるのです。そのように洗礼は、私たちの決心を伴うものです。その決心がなければ洗礼にはいたりません。キリスト教の洗礼、イエスの名による洗礼には、同時にそれを越えた側面があります。二つ目に心に留めたいことは、洗礼は、神の側からのしるし、イエス・キリストの側からのしるし、ということです。私たちは、自分で決心をして洗礼を受けると思っています。その通りではありますが、実はそこには神様の見えざる導きがあります。三つ目は、洗礼には水が用いられるということです。それぞれ古いものが死に、新しいものへと生まれ変わることが記されています。それは、新生のしるしです。四つ目に、洗礼は罪の告白のしるしという人間の側のことだけではなく、「罪の清め」というイエス・キリストの側からのしるしであることも心に留めたいと思います。

洗礼については、そのようにさまざまな意義がありますが、それらを踏まえながら、イエス・キリストが洗礼を受けられたということです。神様は、これからイエス・キリストを通して、特別なことをなさろうとしておられるのです。主イエスの受洗は、その最初の出来事でありました。その神様の意志とは、「神の子が人の前にひざまずく」ということです。イエス・キリストは、あたかも罪ある者のごとく、それを引き受け、私たちは、あたかも罪のない者のごとく、義とされるのです。イエス・キリストの洗礼によって、私たちの罪とイエス・キリストの義の取り換えが起こっている。そのことは、これから後のイエス・キリストの生涯と死において起こることです。その最初のしるしとして、イエス・キリストの洗礼が行われたのです。それが神様にとって「正しいこと」であったと言えるのではないのでしょうか。